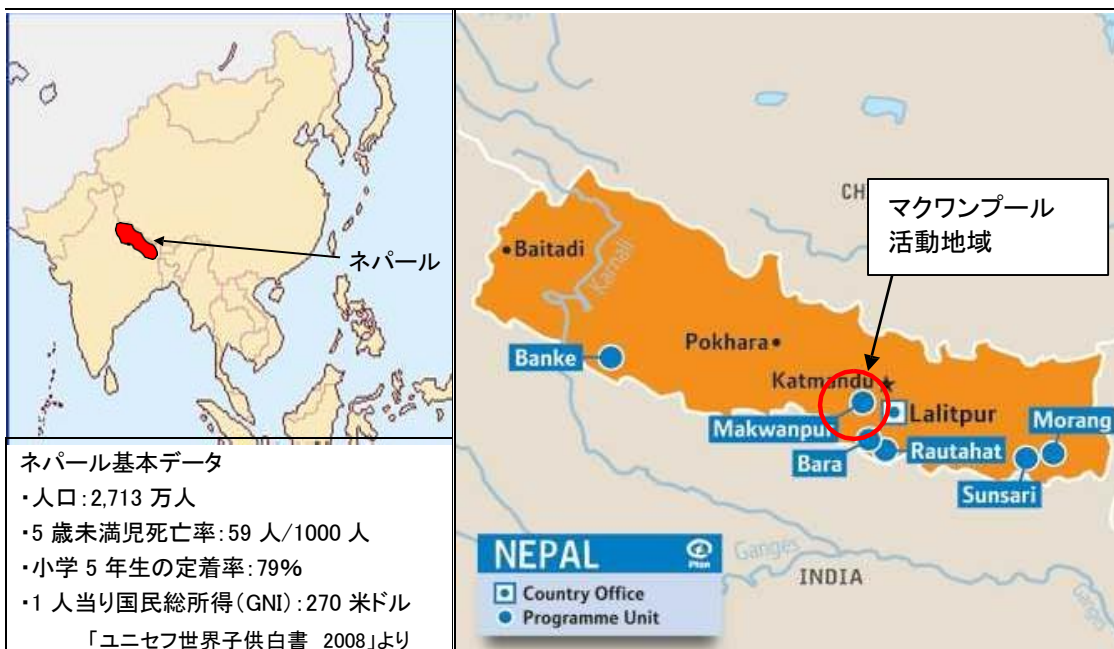


しょうがっこうをおくる会 様 プラン特別プロジェクト ネパールにおける小学校建設プロジェクト 完了報告書

1. プロジェクトの背景・概要

プランは、ネパールで1978年に活動を開始して以来、現在はカトマンズにある国統括事務所と4つの現地事務所を拠点として住民参加型の地域開発活動に取り組んでいます。



ネパールの首都カトマンズの南に位置するマクワンプル県は、大部分が森林に覆われ、平野の少ない地帯です。プランが活動するコミュニティの90.1パーセントの人々が農業に従事していますが、農業生産高は低く、人々は苦しい生活を送っています。

教育に関しても、この地域は深刻な問題を抱えていました。近年増加する生徒数に対し、教育施設や設備が不足しているほか、教員の数・質ともに不十分で、適切な教育サービスを提供することができませんでした。学校では、1クラスあたり平均60人の生徒が狭い教室で授業を受けており、給水設備やトイレ、図書室、運動場が整っていないことがほとんどでした。

このコミュニティにあるシュリー・セティ・デビ小学校も、教育環境の不備に悩む学校のひとつでし

た。小学校には、近隣の2村からも子どもたちが通っていますが、学校が遠いために通学をあきらめてしまう子どもたちもいました。特に、家庭の水汲みや農作業などの手伝いを任される女の子たちにその傾向が顕著でした。学校にある5つの教室は、どれも10平方メートルほどの小さな部屋で、最低限必要な広さの半分も満たしていませんでした。子どもたちは、狭く換気の悪いこれらの教室に詰め込まれるようにして座っており、授業に集中することが困難でした。

このような状況を改善するため、このプロジェクトでは、シュリー・セティ・デビ小学校に約30平方メートルの教室6室を建設し、この小学校に通う先住民族であるタマン族200人の子どもたちが適切な環境で授業を受けられることを目指しました。

2. プロジェクトの経過

このプロジェクトは、2007年12月に開始後、ネパール国内で頻発しているストライキや議会選挙、資材の高騰などの影響で、遅延を余儀なくされたものの、以下の活動を実施して、無事完了しました。

■ プロジェクトの事前準備

プランは、しょうがっこうをおくる会様からのご支援決定の後、地域の人々、教師や保護者など関係者を集め、ミーティングを開きました。その結果、計画立案から、実施、進捗管理、評価などプロジェクトのすべての段階に関わり、プロジェクトの中心的役割を受け持つことに同意し、それぞれの代表からなる学校管理委員会を結成しました。また、その他に、9人の代表からなる建設管理委員会や、購買、在庫管理、会計をそれぞれ担当する副委員会を組織するなど、役割ごとにいくつかの委員会を組織し、詳細な活動スケジュールを立てました。

■ 建設準備

基礎を築くための土砂掘削など、熟練技術を必要としない作業は、地域の人々が積極的に参加しておこないました。また、建設資材となるレンガや砂利の運搬も、山岳地帯にあるため困難でしたが、地域の人々の協力で、無事搬入されました。

■ 建設工事

地域の人々の話し合いの結果、2階建て(6教室)の学校建設が決定しました。基礎工事のあと、床や壁の工事を行いました。床にはコンクリートを流し込み、壁はレンガ積みをしたあと、目地塗りを行い、強度を高めるための仕上げを施しました。屋根には色のついた波打ちトタン板を設置しました。その後、窓や扉を取り付け、外壁塗装などの仕上げ工事を行いました。例年より早く雨季に

突入したことによる、資材の到着遅延や労働力不足、および資材の高騰などのため、プロジェクトに遅延が発生してしまいましたが、学校管理委員会をはじめ、保護者、教師や建設業者の努力により、校舎は完成しました。

3. プロジェクトの成果

■ 子どもたちの学習環境と、教育の質の向上

衛生的で広い教室を備えた校舎が完成したことで、この学校の生徒たちの学習環境が格段に改善されました。快適な環境で学習できるようになったことで、子どもたちの学習意欲は高まっており、今後は学習効果の向上も期待できます。また、プロジェクトを通して、教師をはじめとする学校関係者、保護者たち、地域の人々は、教育について話し合う場を持ち、それぞれが教育の重要性を理解するようになりました。設備の改善に加え、人々の教育に対する理解が深まったことで、地域の子どもたち、特に女の子たちの就学率の向上が見込めるようになりました。

■ 住民参加による、地域の能力強化

プロジェクト期間中、子どもたちを含む地域の人々、保護者会、学校関係者、自治体の担当者などプロジェクトに関わるすべての人々が良好な協力関係を築き、うまく役割分担をしながらプロジェクトに積極的に参加しました。その結果、地域の人々自身が責任を持って、プロジェクトによる成果を継続させていく体制が整いました。

5. 現地の声

「新しくできた校舎は、以前の校舎よりも家から近くなりました。とても快適な教室で勉強できるようになって嬉しいです。プロジェクトを支援くださってありがとうございました。」

(カンチ・マヤ・スヤングタン／小学3年生女子)

「新しい教室で授業を受けられるようになってよかったです。教室は広いので、生徒全員が入ることができます。運動場も前と比べると広くて安全です。」

(ラム・バハドゥール・ブロン／小学校4年生)

「このコミュニティに新しい校舎ができてとても嬉しく思います。新しい校舎ができたことで、子どもたちにとってより良い学習環境が整いました。現在子どもを学校に行かせていない親たちも、今後は子どもを学校に通わせるようになるでしょう。地域の子どもの未来のために、素晴らしいプロジェクトをご支援くださった、しょうがっこうをおくる会様に感謝いたします。」

(チニ・マヤ・シング／子どもの親)

「この学校の校長であることをとても誇りに思います。このプロジェクトでは、学校管理委員会や建設委員会を通して、資材や労働力の管理、人員動員などに携わりました。新しい校舎は、多くの生徒にとって家から近くなり、生徒たちは安全できれいな教室で授業を受けています。ご支援くださったしょうがっこうをおくる会様に、学校を代表してお礼申し上げます。」

(ラジェンドラ・カルキ／校長)

「このような素晴らしいプロジェクトの学校建設委員会の委員長を務めることができ、とても光栄に思います。生徒たちは、十分な広さのある子どもにやさしい教室で授業を受けることができるようになりました。新しい校舎は、これからの世代を担う子どもたちの、より良い未来を実現するでしょう。」

(ラル・バハドゥール・ゴル／学校建設委員会委員長)

6. 写真



建設中の様子。校舎の形が見えてきました。



完成間近の小学校を前に、子どもたちの期待が膨らみます。



広い運動場で思いきり遊べるようになりました。



完成した新校舎の前に集合する生徒たち
「ご支援ありがとうございました！」

7. お問い合わせ先

財団法人 日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)
プラン特別プロジェクト担当 寺田 聡子 TEL:03-54
81-6265/FAX:03-5481-6200 Email:
terata@plan-japan.org